

2013年留学生センター活動報告

林 文明・桜山一倉・高瀬利恵子・及川浩和
古川竜治・清水勝昭・吉川せつ・荒河由香

1. はじめに

本学では、留学生センター（以下「センター」と略す）を2009年4月より立ち上げ、今年で5年目を迎える。センターでは留学生や周りの日本人学生・教員が集え、安心でき、交流を深められる“癒やしの場”として日常の学習と交流を初め、学内活動・地域との交流活動・留学生の文化活動等を行っている。

本稿では、2013年にセンターが行った活動について報告する。

2. センターの取り組み

センターでは、週1回定例会議を行い、活動の計画を話し合うとともに、活動後の報告をすることで、反省点等を見出し、今後の活動がさらに良いものになるよう取り組んだ。また、留学生の状況についても報告し、情報を共有化し、すべての教員が留学生の状況を認識した上で対応してきた。また必要があれば他部署と調整し、学内外の協力を得て留学生のサポートを行ってきた。特に今年は地域交流を深めていくことに重点を置き、美濃加茂国際交流協会、富加国際交流協会、坂祝町総務課、ヒッポファミリークラブ等外部団体と積極的に交流を行った。まず、各団体から発信されている地域の行事を収集し、センター員を中心に学生への参加案内及び募集を行い、地域行事に参加させることで、地域の方々と国際交流を行った。また、地域の方々に本学に来て国際交流に参加して貰えるように、センターが企画する学内行事を各団体に案内し、ほぼすべての行事に参加交流をして頂いた。また本学主催の第4回日本語弁論大会においては、今年も審査委員として坂祝町から南山町長に来て頂くことが出来た。

3. 年間のセンター活動

以下に、2013年に行ってきた主要な活動について列記する。

- 1月13日 岐阜県青年のつどい協議会主催「料理教室」で料理講師（各務原産業会館）
- 1月20日 富加町国際交流協会主催「料理教室」で料理講師（富加町西公民館）
- 1月25日 第3回新春国際交流会で餅つきとカラオケ大会（留学生センター）
- 4月19日 春季留学生新入生歓迎会（学生ホール）

- 4月29日 多国籍文化交流会（本学敬愛寮食堂）
- 5月26日 第5回国際交流スポーツ大会（本学）
- 6月16日 美濃加茂国際交流協会主催「料理教室」で料理講師（美濃加茂市生涯学習センター）
- 6月18日、7月15日 緊急時の心得講習会（223教室）、緊急時の心得集を配布
- 7月19日 第4回日本語弁論大会と懇親会（223教室、留学生センター）
- 8月3日 富加児童館まつり（富加町児童センター）
- 10月11日 秋季留学生新入生歓迎会（留学生センター）
- 10月20日 美濃加茂市中山道祭り（美濃加茂市中山道）
- 10月26、27日 大学祭 模擬店出店（本学）
- 11月14日 日本文化探訪及び体験（上之保ほほえみの湯）
- 11月22日 日本文化探訪及び体験（土岐市曾木公園）
- 12月3日 冬の防災フェア（本学）

活動への参加は、留学生にとって異文化交流という重要な意義があり、日本文化への理解と感謝の気持、新鮮な感動を体験できる。よって、多くの活動が可能になるよう支援していきたい。

4. 活動の様子

1月13日に岐阜県青年のつどい協議会主催の料理教室が各務原産業会館で、20日に富加町国際交流協会主催の料理教室が富加町西公民館で行われ、本学留学生が料理教室の講師を務めながら、地域の人たちと交流した。25日にはセンターで、第3回新春国際交流会を実施し、日本のお正月を体験する。また、日本の歌を通じ学生、教職員、国際交流関係者相互の交流を深めるという目的で、お餅作り、カラオケ、合唱を行った。参加者は、留学生30名、日本人学生1名、教職員20名、地域の方3名の総勢54名で、楽しい一時を過ごした。（写真1、2、3、4）

新年度を迎え、4月19日に学生ホールで、春季留学生新入生歓迎会を実施する。参加者は、本学留学生55名、中日本航空専門学校留学生2名、岐阜医療科学大学留学生1名、日本人学生1名、本学教職員24名、中日本航空専門学校職員1名、神野学園本部2名、地域の方2名の総勢88名で、



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8

歌やビンゴゲーム等で盛り上がり交流を深めた。(写真5, 6, 7, 8)

4月29日にはヒッポファミリークラブ(外部団体)の方達と、国際交流を目的とし、本学敬愛寮食堂で多国籍文化交流会を実施した。参加者は、本学留学生31名、ヒッポファミリークラブ13名、センター員5名の総勢49名で、各種リクレーションを通じ交流を深めた。(写真9, 10, 11, 12)

5月26日には本学主催の第5回国際交流スポーツ大会が実施され、参加国20カ国、参加校13校(本学、日本語学校、通信制高校)総勢約300名の参加者で、スポーツ(バスケ12チーム、卓球45名、サッカー9チーム)を通して交流を深めた。(写真13, 14, 15, 16)



写真9



写真10



写真11



写真12



写真13



写真14



写真15



写真16

6月16日に美濃加茂国際交流協会主催の料理教室が美濃加茂市生涯学習センターで行われ、本学留学生が料理教室の講師を務めながら、地域の人たちと交流した。

6月18日、7月15日の両日で、本学留学生を対象に緊急時の心得講習会を行い、緊急時の心得集も配布し、緊急時（地震等）に対応できるよう指導を行った。（写真17、18）



写真17

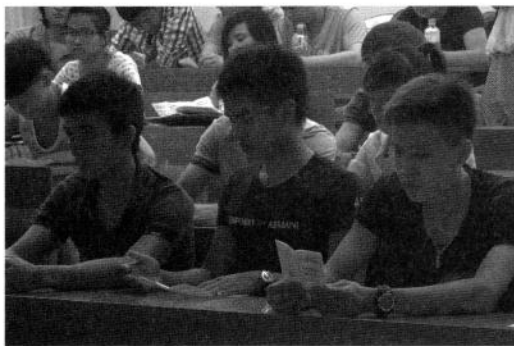


写真18

7月19日に本学223教室で、留学生の日本語能力向上と学習成果の発表、学内外の関係強化を趣旨として第4回日本語弁論大会を実施し、過去最高の9名（国際自動車工学科1年6名、自動車工学科1年1名、自動車工学科2年2名）が発表した。また国別ではネパール3名、中国3名、ベトナム2名、マレーシア1名の4カ国の学生による発表である。実施に当たり、坂祝町広報誌に案内を掲載して頂き、さらに坂祝町にある公共施設等に案内ポスターを貼って頂き、地域の方々に告知して頂いた。また、国際交流を行っている地域団体等にも案内した。大会審査員4名の内1名を坂祝町に依頼し、当日は坂祝町の南山町長に審査員を勤めていただき、挨拶も頂戴した。参加者は総勢40名で、地域からの参加者は5名だった。発表者は皆堂々と発表し、聴講者も感銘を受けていた。大会後、センターで懇親会を行い、外部の方々とも交流を深めた。（写真19、20、21、22、23、24）

8月3日に富加町児童センターで、富加児童館まつりが行われた。本学留学生も参加し、地域の小学生と各種リクレーションを通して交流を深めた。（写真25、26）



写真19



写真20



写真21



写真22



写真23



写真24



写真25



写真26



写真27



写真28



写真29



写真30

秋学期に入り、10月11日にセンターで秋季留学生新入生歓迎会を実施する。参加者は、本学留学生19名、本学教職員14名、神野学園本部2名、地域の方4名の総勢39名で、自己紹介やビンゴゲーム等で交流を深めた。(写真27, 28, 29, 30)

10月20日に雨で中止かと思われた「おんさい姫道中2013」が美濃加茂市中山道で行われ、6名の留学生（ベトナム3名、タイ2名、マレーシア1名）が昔の武士の衣装の上に雨がっぱを羽織り行列に参加した。天気は良くなかったが、留学生達は貴重な日本文化を体験できたことで、とても満足した顔をしていた。(写真31, 32)



写真31



写真32

10月26, 27日の2日間、台風27号の影響で大学祭の開催が危ぶまれたが、皆さんの心がけが良かったのか、台風を太平洋側に追いやり天候に恵まれ、留学生が出店した模擬店（ベトナム料理、ネパール料理）も、地域の人々に大盛況であった。(写真33, 34, 35, 36, 37, 38)

11月14日に日本文化を体験するということで参加者を募り、関市上之保にあるほほえみの湯に出向き温泉入浴を体験した。参加者は、自然の中にある露天風呂に浸かり、とても寛げると日本の情緒を満喫していた。(写真39, 40)

11月22日に日本文化体験の第2弾で、この時期しか見ることができない紅葉見学を実施した。見学場所は、池に映る紅葉のライトアップで有名な土岐市曾木公園である。参加者は、母国では味わえない貴重な体験に満足していた。また、町の人たちによる手料理も食し、日本の四季や文



写真33



写真34



写真35



写真36



写真37

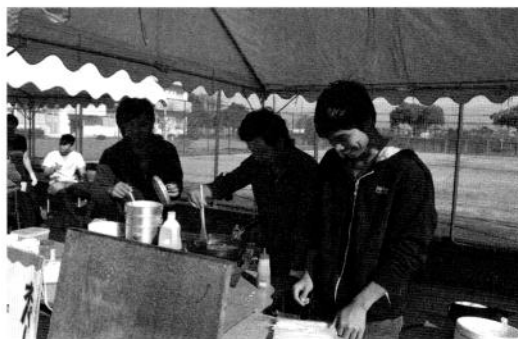


写真38



写真39



写真40

化を味わった。(写真41, 42)



写真41



写真42

12月3日に地震体験車を呼んで冬の防災フェアを実施した。参加者は、留学生を中心に日本人学生、教職員を含め98名が貴重な体験をした。地震の少ない国から来ている学生は、地震の怖さや災害時の対応をこの体験を通じ経験し、防災の大切さを学ぶことができた。(写真43, 44)



写真43



写真44

5. ま と め

今年は、センターとして初めて安全支援の取り組みを行った。今後は、災害多発が危惧されており、異国の地にあつて犯罪や災害の被害者とならないよう活動を充実継続させていきたい。

学内活動では、毎回地域からの参加者があり、また地域から要請のあつた活動にも毎回留学生が参加した。様々なセンター活動に参加している留学生は、その活動で交流を深めた地域の方から家に招いてもらうなど、友好的、継続的な関係が生まれている。このことは、センターとして何より嬉しいことである。今後も日本をよく理解し、日本と母国の友好を深めていって欲しいと願う。留学生としての本分は学業なので、その勉強がしっかり行えるよう、センターは心の安定と環境作りを充実させていくつもりである。昨今、経済格差から、留学を継続できない学生が多数出たが、このような時だからこそ、まじめに努力を続けている留学生が動揺せず、勉強がで

きるようセンター活動をより充実させなければいけないと感じる。日頃よりセンター活動にご協力いただいている学内外の皆様に、深く感謝の意を表します。

参 考 文 献

- 1) 林文明・桜山一倉・高瀬利恵子・及川浩和・古川竜治・清水勝昭・吉川せつ・謝珉：
留学生センター設立経緯とその意義，中日本自動車短期大学論叢，第41号，p115-124（2011）
- 2) 林文明・桜山一倉・高瀬利恵子・及川浩和・古川竜治・清水勝昭・吉川せつ・謝珉
留学生センター活動報告—地域との連携強化を課題として—
中日本自動車短期大学論叢，第42号，p117-125（2012）
- 3) 林文明・桜山一倉・高瀬利恵子・及川浩和・古川竜治・清水勝昭・吉川せつ・荒河由香・謝珉 2012年留学生センター活動報告 中日本自動車短期大学論叢，第43号，p117-128（2013）